

事業名

未来を切り拓く子

目 標

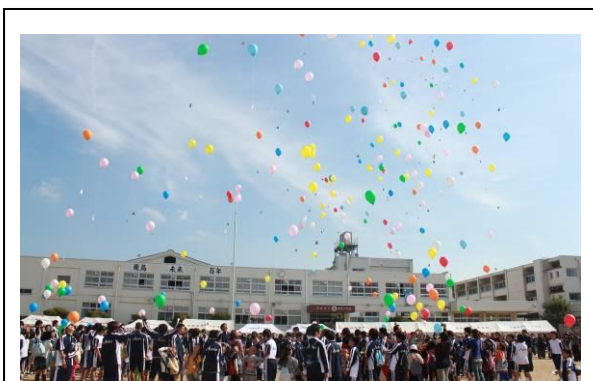
地域に誇りを持ち、地域を大切に作る心と態度を育てる

1. 取組の視点

「未来を切り拓く子」は、飛鳥校区の最重要テーマです。かつては、どこの町内も隣近所の交流が活発で、電話のある家を（呼）として使わせてもらう時代がありました。回覧板が地域のことを知る貴重な情報であり公民館に人が集うことも頻繁でした。近年、公団やマンションが増え、年々核家族化し、それらの世帯が増加の傾向となってきました。そのような状況に加え、本校区は、少子高齢化も進みだしており、現状を考えると、より一層の地域連携の必要性を感じるどころです。そこで飛鳥校区の子ども達に「地域を大切に作る心」を学校教育をとおして、どう育てるかということで、改善を加えながら以下の視点で地域行事・イベントを企画しました。一つは、経験豊富な地域人材の貴重な知識に触れ合う機会を多く持つこと。二つ目は、常に地域全体で子ども達を見守る工夫をする。三つ目は、普段の生活から子ども達に触れ合う機会を持つこと。これらの3つの視点で幼・小・中学校を支援しながら地域が一つになるための様々な事業を計画しました。飛鳥校区のネットワークを広げながら飛鳥の未来を切り拓く子ども達が少しでも地域を誇れる大人へと成長してくれることを願ってまいります。

2. 取組の概要

地域最大の取組は、あすかフェスティバルです。



幼稚園から中学校までの出し物を毎年お願いし

ており、地域の子どもの成長を見る絶好の機会となっています。校区内にとどまらず様々なジャ



ナルの団体が出演・出店し、年々参加団体が増えていることは本校区にとって大変喜ばしいことです。恒例となっている飛鳥校区の標語募集は、小学生が応募した「つなげよう心と心あすかのわ」が今年度の最優秀賞となり、地域の至る所にポスター掲示をして人々の関心を呼んでいます。もう一つ定着しつつあるのが中学校の吹奏楽部による演奏で、夏の夕べに手作り灯籠へ火を灯し、幻想的な雰囲気の中コンサートを行っていただいています。今年度4回目を迎え、今や300人からの来場者を迎えるほどになり、地域のコミュニケーションを深めています。

3. 成果と課題

各行事ごとに子ども達と触れ合う機会を重ねてきて、地域の大人たちが各校園の話題をきっかけに連携が深まっています。それぞれのつながりの中で、学校行事へ参加する回数も増えてきており、今地域の力が学校の教育向上につながるために何が必要なのか、地域の組織連携を課題としながら再検討する必要があります。そこには、飛鳥独自の防災教育を今後の必要課題とし、地域一帯の連携をさらに深めるための取組としてまいります。

事業名

飛鳥大好きプロジェクト (ADP)

目標

地域とのかかわりの中から地域を大切に誇れる生徒を育てる

1. 取組の視点

飛鳥大好きプロジェクトは、生徒指導上の課題から「何とか学校を立て直そう」と生徒会を中心に目標を掲げ、「すべての生徒が学校にいることを楽しく思い、夢や希望の持てる、活気に満ちた学校を取り戻そう」との趣旨で様々な取組が始まりました。今年度は、そのテーマだけがマンネリ化しないよう、常に小学校や地域と連携を持ちながら検討を重ね、9つ（校内環境整備・小中一貫交流・自然体験観察・地域ふれあい・ささえ隊・学校力向上・人権教育向上推進・施設交流・郷土なら推進）の事業を行い、地域力の活用に重点を置きました。視点の一つとして、地域のどのような力を必要としたいのか、事業の中身だけの検討ではなく地域の方と先進校の視察や外部講師を招聘し、合同研修を重ねることでこれまでとは違う中身の検討や内容を深めることができました。

2. 取組の概要

校内環境整備事業では、生徒たちが奈良マラソンのコースになる校区内の道路を積極的に清掃することで地域交流を深めたり、地域の方が休日にもかかわらず校舎内の清掃を行ってくれる等、ありがたい支援を頂いたりもしました。学校力向上事業では、生徒会の積極的な取組で奈良マラソンの出発会場に、地元の紹介コーナーとして本校で取組んできた飛鳥ブランド「いのファーブーツ」（イノシシの皮による履物）の製作に関わった工程の説明や展示を行いました。これらの取組を外に向ける発信ができたことは、満足のいく活動でした。また、地域ふれあいとして、地域の温かい見守りでクリーンキャンペーンを行った後に、かき氷の振舞いがあったり、一年の最後に野菜が収穫できたり、温かい豚汁を頂いたり、一緒に餅をついたりなど貴重な体験をさせていただきました。

た。これらのふれあいの中で地域の方に見守られている実感と地域を大切にすることが生徒一人ひとりの中に少しでも芽生えてくれたらと願っています。ささえ隊の新規事業として生徒たちの



相談活動を始めてもらったことは、学校にとっても生徒たちにとっても新しい風が吹いたように思います。また、図書ボランティアの方々も本の読み聞かせ事業として成長過程に必要な図書の紹介や朗読をしていただいたことは、生徒の心の安らぎの場となってきているように感じています。（避難所間仕切り訓練の様子）

3. 成果と課題

各事業の取組の中で、教員以外の人々との関わりが増え、生徒自身も交流を重



ねるたびに学び受ける知識や地域のつながりが深まっているようです。地域事業に於いても中学生の力を必要としており、中学生の活躍する場を今後も継続しながら地域に定着させていきたいと考えます。今、防災力強化モデル校として生徒会を中心に防災意識を高める取組を行い始めています。災害時には、緊急避難所となる学校で中学生の役割を踏まえながら、地域の中で中学生にできることは、何なのか。更なる取組を模索しながら今後の活動としたいです。

事業名

人との出会いを生かして、人から学ぶ飛鳥っ子事業

目標

世界遺産を始め、多くの歴史・文化遺産のある校区である。ここに生まれ育っている子どもたちに、地域に出掛ける機会を設定し、多くの方々との出会いを通して、自らの地域に誇りをもたせたい。

1. 取組の視点

本校は、校区に多くの文化遺産があり、古くから地域とのつながりが強い学校です。そこで、これらの教育資産を効果的に活用し、授業の活性化を図るとともに、本年は、キャリア教育を重点に定め、その能力の向上を目指して取組を進めてきました。特に、校区の自治連合会が主催して実施している飛鳥フェスティバルは、児童が地域の方々と交流する絶好の機会であり、児童が地域の一員としての自覚をもち、地域を誇りに感じる取組となっています。

また、本校は小中一貫校のモデル校でもあり、飛鳥中学校や飛鳥幼稚園とも連携を密にし、学校行事や授業交流などの取組を進めています。

2. 取組の概要

本事業の中核となる行事として飛鳥フェスティバルがあります。この行事は、飛鳥中学校区に住む方々が、地域の子どもの健全育成を図るために始められた事業であり、隔年ごとに小学校・中学校を会場に開催しています。



本年は小学校で開催しましたが、多くの地域の方々が発言に関わり、地域行事として様々な交流の場を作ってくれました。子どもたちは、イベントを楽しみながら、地域に住む喜びを感じるとともに、様々な方々との交流ができました。

また、総合的な学習の時間を活用して、世界遺産を含む奈良の歴史的な遺産を知る活動では、校区の利点を生かして地域の方々の協力を得て授業に採り入れる取組を行いました。低学年の生活科においても校区にあるお店や公園等に頻繁に出かけ、地域や保護者の協力を得て授業を行ってしました。



さらに、小中一貫教育の一環として、奈良公園オリエンテーリングを行い、飛鳥中学の先輩たちと一日を過ごす中で、この校区の素晴らしさを肌で感じる事ができました。



3. 成果と課題

多くの文化遺産を抱える本校の地の利を生かして、地域に出かけ、地域の方々との交流の場を数多く設定することで児童は地域に愛着をもち、地域の一員であるという自覚につながったと考えます。今後さらに地域の方々との連絡を密にし、教育活動の中に地域の方々に登場していただく場面を増やしていきたいと考えます。また、本年度から取り組み始めたキャリア教育についても本事業を十分活用して、児童一人一人に、確かな力を身に付けていきたいと考えます。

事業名

活力ある楽しい幼稚園

目標

心も体も弾ませて意欲的に活動する幼児の育成

1. 取組の視点

『体力作り』『人とのかかわり』『自然とのかかわり』『身近な環境とのかかわり』の体験を積み重ねながら、地域の一員として生活することで、親しみや感謝の気持ちが育まれ、大切にしようとしたり、自分に自信をもって友だちとともに、心も体も弾ませて意欲的に活動しようとして取り組むことで生きる力が身につくと考えます。

- ・いろいろな運動遊びに進んで取り組み、健康な体づくりをする。
- ・いろいろな人に出会い、挨拶や触れ合いを大切にし、人とかかわる力を育む。
- ・園内環境を工夫し自然に触れ感じる心の育成や、地域の文化や伝統に興味をもつ。
- ・保護者や地域の方々に、幼稚園教育を様々な形で啓発し、ご協力を頂ける体制を整える。

2. 取組の概要

<英語で遊ぼう>

地域の大学の留学生に、外国の言葉や遊び、文化を聞かせてもらったり、ネイティブな発音を耳にしたり真似をして話したりすることで、子どもたちは外国にイメージを広げ、異なった文化に興味関心をもち、聞き逃さないようにと耳を澄まして聞く姿も多く見られます。



<サッカー遊び>

思う存分に体を動かして遊ぶ心地良さや、簡単なルールを守って遊びを進める楽しさを味



わいました。また、寒さや暑さに負けないで、積極的に取り組む態度が育ってきました。

<地域の方々との触れ合い>

地域の敬老会に参加し、一緒に歌ったり手遊びをしたりして、楽しく遊ぶ中で地域の方々に対する信頼感や親しみの感情が生まれ、感謝や敬い懂れる気もちも育ちつつあります。また、未就園児と一緒に遊ぶ時、積極的に誘ったり教えたりしていたわる姿や、未就園児の保護者に、自分から挨拶する姿も見られるようになってきました。



<栽培活動>

親子で畑の土作りから苗植え、施肥等、一緒に活動することで、自分達で栽培の場を整えることや、植物の世話をする楽しさとしんどさ、収穫の喜びや感謝の気持ちなどを親子で共感したり、共通の話題や楽しみが増えたりして、親子で相談するなど会話の広がりも感じられました。



3. 成果と課題

本年の事業を継続し、子ども達が躍動する心をもって意欲的に活動できる環境を構成するとともに、未就園児や地域の高齢者の方々に幼稚園に招いたり、保護者には園生活の様子や子どもの育ちを感じられるように、様々な発信の方法を工夫し、幼稚園教育の大切さを理解していただけるようにしていくことが大切です。